

# まなびと



もくじ

「小学校学習指導要領実施状況調査」における社会科の結果	
ならびに指導上の改善点 .....	澤井陽介 2
「水問題」から考えるこれからの小学校社会科学習 .....	佐藤克士 8
<b>実践紹介</b>	
<b>6年</b> 小学校の歴史学習で大切にしたいこと .....	中樫浩太 14
<b>6年</b> 「AなのにBなのは、なぜ」で社会的な見方や考え方を育てる授業の提案 .....	横山幸生 18

# 「小学校学習指導要領実施状況調査」における社会科の結果 ならびに指導上の改善点

文部科学省教科調査官 **澤井 陽介**

国立教育政策研究所では、学習指導要領が改訂され全面実施される度に、その趣旨が各学校においてどのように実現されているかを調査している。平成20年に改訂された学習指導要領についても、平成25年2月に「小学校学習指導要領実施状況調査」としてその実現状況を調査し、結果を本年2月に公表した。

今回の調査では、思考力・判断力・表現力等の育成など、学習指導要領改訂の基本方針に掲げられている事項や従来から課題と指摘される事項等の視点に基づくペーパーテストを実施するとともに、児童、教師、学校長を対象とした質問紙調査を実施した。

社会科は、第4学年、第5学年、第6学年の児童計約16,000名と教師約900名を対象に実施した。本稿では、その結果の概要とそれらを踏まえた指導上の改善策について述べたい。

## 1 ペーパーテスト調査

### (1) 思考力・判断力・表現力等の育成

社会科における思考力・判断力・表現力の育成については、下の表のように6つの問題群に分けて

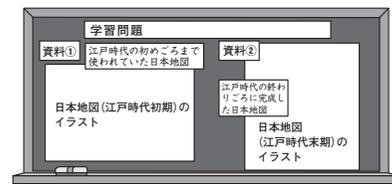
問題群	問題数			
	4年	5年	6年	計
(ア) 学習問題を見だし、その解決の見通しをもつ	2	—	10	12
(イ) 様々な情報を比較して、社会的事象の意味を考える	1	5	—	6
(ウ) 様々な情報を関連付けて、社会的事象の意味を考える	3	4	2	9
(エ) 様々な情報を総合して、社会的事象の意味を考える	6	6	—	12
(オ) 社会の一員として、社会的事象の意味を考える	3	2	7	12
(カ) 知識や技能を活用して、社会的事象について説明する	0	4	2	6
合計	15	21	21	57

調査した。それぞれについて主な結果を述べる。  
(ア) 学習問題を見だし、その解決の見通しをもつこと

該当する12問から次の結果が得られた。

●問いに対して調べる事柄や資料を選ぶことはできるが、問い自体を表現することには課題がみられる

② 先生が、黒板に次の2つの資料をはりました。あとの問題に答えましょう。



(2) みんなで2つの地図を見ながら話し合い、学習問題について、次のような予想を立てました。次の2人は、どのような学習問題について予想しているのでしょうか。□に続きを書きましょう。

※学習問題…「どのように〜」「なぜ〜」など、ものごとの様子や意味を調べたり考えたりする学習の問題。

②の地図は、現在の地図にそっくりだね。すぐれた技術や工夫があったのではないかな。

ひろしさん

そうね、飛行機や自動車のない時代でしょう。②の地図を作るには長い年月がかかったのではないかな。

みちこさん

学習問題  
②の地図を作った人物は、

▲問題ア

学習問題の解決を見通して、調べる事柄や資料を選ぶ問題では、80%以上の通過率のものが多いのに対し、学習問題を記述する問題では、通過率が51.1%と課題がみられた。

課題がみられたのは、「設定されている場面で学習問題を見だし、疑問文で表現する」問題アである。すなわち、資料の情報とそこから生まれる問い、その解決につながる予想の相互関連性を把握できるかどうかを問うている問題である。

(イ) 様々な情報を比較して、社会的事象の意味を考えること

(ウ) 様々な情報を関連付けて、社会的事象の意味を考えること

これらの問題群に該当する15問から次の結果が得られた。

●情報を基にして比較したり、関連付けたりして社会的事象の意味を考えることに課題がみられる

情報を比較して相違点(社会的事象の特徴)を見出す問題では、イラストの比較では通過率93.8%であるのに対し、グラフの比較では通過率50.1%であり課題がみられた。同じ「比較」でも、資料の内容によって大きく難易度が異なることが分かる。比較して共通点(社会的事象の働き)を表現する問題では、4問中2問が60%を下回っており課題がみられた。

情報を関連付けて、社会的事象相互の因果関係を考え、表現する問題(3問)は70~80%台であったのに対し、情報を関連付けて、社会的事象が成立する条件を考えたり、情報を自分たちの生活と関連付けて、社会的事象が国民生活に果たす役割を考えたりして、表現する問題では、6問中4問が60%台、1問が30%台と課題がみられた。

(エ) 様々な情報を総合して、社会的事象の意味を考えること

複数の資料から読み取った様々な情報を総合して、社会的事象の目的、働きなどを考え、表現できるかどうかを見る問題群である。該当する12問

から次の結果が得られた。

●情報を分類・整理して、社会的事象の働き、目的などを言葉で表現することに課題がみられる

情報を総合して、社会的事象の働きを考える問題(10問)のうち、複数の資料を分類・整理して、関係機関や人々の働きを考え、表現する問題は8問中7問で60%を下回っており、情報を分類・整理して、社会的事象の主体者や働きを整理したり概念化したりして表現することに課題がみられる。その一例は、下記の「4枚の写真を2枚ずつにまとめて、人々の安全を守る働きを考え、表現する」問題エ(通過率37.1%, 36.5%)である。

⑥ 日本で発生する地震に関する資料を見て、あとの問いに答えましょう。

1 【道路などの耐震工事】

国や県、市が管理している道路や橋を地震の時にくずれないように補強工事を行っています。

2 【町会の人々の安全のための話し合い】

町会の人々が、危険な所や避難ルート、避難場所を調べ、地域に知らせています。

3 【地域の防災訓練】

地域の人々が消防団の呼びかけで集まって、地震にともなう火災の消火訓練などを行っています。

4 【緊急地震速報】

国の機関の気象庁が発する緊急地震速報などを、県や市が住民に確実に知らせる仕組みづくりを進めています。

(3) 2つの資料の共通する点を考えて、だれ(どこ)の、どのようなはたらきか、□の中に当てはまる言葉を書きましょう。

1と4に共通する点は、  
どこ の どのような はたらき

2と3に共通する点は、  
だれ の どのような はたらき

▲問題エ

### (オ) 社会の一員として、社会的事象の意味を考 えること

社会の一員として、社会的事象の意義、現代社会の課題解決について考え、表現できるかどうかを見る問題群である。該当する12問から次の結果が得られた。

●文化遺産などの保存や継承の意義を考え表現することや、現代社会の課題解決について考え表現することは概ね良好である

### (カ) 知識や技能を活用して、社会的事象につ いて説明すること

既習の知識や資料から読み取った情報を基にして、社会的事象について説明できるかどうかを見る問題群である。該当する6問から次の結果が得られた。

●指定された用語を使って、社会的事象について説明することに課題がみられる

既習の知識を基にした資料から読み取った情報を基にして、社会的事象について説明する問題(6問)のうち、指定された用語を使って社会的事象について文で表現する問題(3問)の通過率は、いずれも30%~50%台であり、課題がみられる。

例えば、地図を活用して、我が国の位置について、指定された用語と方位を使って文で表現する問題の通過率は30%台であり、我が国の位置について説明する文に用語を入れて完成させる問題の通過率が70%台であることと比べると課題があることは明らかである。

### (2) 今回の改訂で新設した事項

平成20年の学習指導要領の改訂で新たに内容として位置付けられた事項と、新たに内容の取扱いとして示された事項について調査した。

詳細については、紙幅の関係で述べられないが、主な結果をまとめると次の通りである。

①「内容」として新たに位置付けられた事項  
・第3学年及び第4学年「災害及び事故の防止に

関わる地域の協力活動」,「自分たちの住む県(都、道、府)の地理的位置」,第5学年「世界の主な大陸と海洋」については、調査対象となった相当数の児童ができています。

・第3学年及び第4学年「47都道府県の名称と位置」については、以前の調査と比べて改善傾向にあるが、引き続き課題があると考えられる。

・新たな内容としての位置付けではないが、「我が国の位置と領土」についても調査した。その結果からは、海洋名と方位を使って我が国の位置を文で表現すること、「北方領土」や「ロシア」という用語や、南端、西端の島の名称とそれらが所属する都道府県名の理解に課題があると考えられる。

#### ②「内容の取扱い」として新たに示された事項

・第3学年及び第4学年「方位や主な地図記号」,「事故の防止や廃棄物処理のための法やきまり」については、調査対象となった相当数の児童ができています。

・第5学年「産業における価格や費用」,第6学年「国民の司法参加(裁判員制度)」については、課題があると考えられる。

#### (3) 従来より課題として指摘される事項

過去の調査結果などから、従来より課題として指摘される事項についても、「基礎的な知識」と「基礎的な技能」に分けて調査した。主な結果をまとめると次の通りである。

##### ①基礎的な知識

・従来から課題として指摘される「明治期以降の歴史上の人物と業績」の理解は、以前の調査と比べて改善傾向にあるが、該当する11問のうち、通過率が80%を超えているものが3問、60%を下回っているものが4問であり、依然として課題である。例えば、小村寿太郎と陸奥宗光、伊藤博文と板垣退助など、同時期に活躍した人物を取り違えずに理解することに課題がみられる。

・「国会、内閣、裁判所の働き」に関する重要な用語・語句の理解にも課題がみられる。特に内閣、裁判所の働きを説明した文章を選択する問題(2

問)の通過率は、それぞれ49.9%、23.5%であり、課題がみられる。

##### ②基礎的な技能

・グラフや年表から情報を読み取ることは、相当数の児童ができています。

・地図から読み取った情報を適切に表現したり、複数の地図から工場の分布の様子と交通の条件などの情報を関連付けて読み取ったりすることに一部課題がみられる。

## 2 質問紙調査

### (1) 児童質問紙調査

児童質問紙調査の結果では、調べ考え表現する社会科学習については、多くの質問事項で肯定的な回答が70%を超えている。

「社会科の学習が好きだ」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、第4~6学年のうち、第5学年が一番低い(約55%)。一方、「社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、第4学年及び第5学年が高い(約80%)。「社会科の授業で学んだことをもとにして、自分たちがすべきことを考えることがありますか」という質問に対して、肯定的な回答(「よくある」,「ときどきある」)をした児童の割合は、第4~6学年のいずれの学年でも75%を超えている。

児童への質問	回答の割合(%)					
	学年	できる	どちらかといえ ばできる	どちらかといえ ばできない	できない	あまりやっ たことがない のでわから ない
社会科の授業で、自分の考えを資料などを使って説明することができますか。	4年	18.1	42.9	19.0	6.5	13.0
	5年	17.7	40.9	19.7	6.1	15.2
	6年	19.2	43.4	16.8	5.3	15.1
社会科の授業で、友だちの意見に対して、自分の考えをもつことができますか。	4年	33.1	39.7	15.3	4.3	7.0
	5年	33.4	41.9	14.0	3.6	6.7
	6年	33.9	42.8	13.0	3.1	7.0
社会科の授業で、調べたことをもとに自分の考えを文章で書くことができますか。	4年	30.3	44.3	15.6	4.9	4.6
	5年	29.0	43.9	16.8	4.8	5.4
	6年	31.7	45.3	13.9	4.4	4.7

その他の主な結果としては、下記の表(調査結果の一部)から、自分の考えをもつことやそれを書くことに比べて、資料などを使って自分の考えを説明することに苦手意識をもっていることがうかがえ、ペーパーテスト調査の結果と共通する「情報を基に」して「説明する」ことに課題がみられる。

### (2) 教師質問紙調査

教師質問紙調査(次ページの表で一部を紹介)の結果では、「学級全体で追究、解決する問題(学習問題)を決めて授業を行っていますか」という質問に対する肯定的な回答が80%を超えていることに代表されるように、子供が学習問題をつかんで調べたり考えたりする問題解決的な学習への意識が比較的高いことがうかがえる。一方で、「児童の疑問を引き出す資料提示の工夫」や「予想に基づいて調べる計画」などへの意識は比較的低く、問いや予想を重視して問題解決の見通しをもたせるようにする指導に課題がみられる。

その他、「問題やテーマを決めて、討論する授業を行っていますか」という質問に対する肯定的な回答は30%台であり、「社会科の授業を展開する中で、他の立場から考えたり他の情報と比べたりして、考えるような授業を行っていますか」という質問に対する肯定的な回答も他の質問に比べて低い。協働的な学びの充実につながる多面的な思考を育てる指導に課題がみられる。

教師質問紙	回答の割合 (%)				
	学年	(そうしている) 行っている	どちらかといえ ば(そうしている) 行っている	どちらかといえ ば(そうしていない) 行っていない	(そうしていない) 行っていない
児童の疑問を引き出すような資料提示の方法を工夫していますか。	4年	15.4	69.3	15.4	0.0
	5年	19.4	64.2	16.4	0.0
	6年	22.6	61.0	15.5	0.6
学級全体で追究, 解決する問題 (学習問題) を決めて授業を行っていますか。	4年	25.4	56.6	17.1	0.9
	5年	26.4	56.0	16.4	1.2
	6年	27.0	53.7	17.9	1.2
児童が予想に基づいて調べる計画を立てるように指導していますか。	4年	12.7	56.1	31.1	0.0
	5年	8.5	53.7	35.2	2.3
	6年	12.3	51.0	33.7	2.6
問題やテーマを決めて, 討論する授業を行っていますか。	4年	4.4	25.9	56.1	13.2
	5年	10.0	25.2	50.7	14.1
	6年	7.0	29.6	50.7	12.0
社会科の授業を展開する中で, 他の立場から考えたり他の情報と比べたりして, 考えるような授業を行っていますか。	4年	11.4	52.2	32.5	3.5
	5年	13.8	56.3	28.2	1.8
	6年	17.0	55.4	27.0	0.3
学習のまとめやふり返りを文章で書かせるように指導していますか。	4年	32.0	39.5	18.4	10.1
	5年	27.6	35.5	24.9	12.0
	6年	31.7	36.1	22.6	9.4

### 3 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点

これらの調査結果から、指導上の改善点を導き出し、次のように大項目4、小項目10に整理した。

#### (1) 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実

①情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え表現できるようにする指導が大切である。例えば、提示する情報(資料など)や学習問題、発問などを吟味することや情報の読み取り方を指導することにより、情報を相互に比較・関連付けたり、情報を自分たちの生活と関連付けたりして、社会的事象の特徴や働き、国民生活に果たしている役割、社会的事象相互の因果関係や社会的事象が成立する条件などを考え表現できるようにしていくことである。

②調べたこと、分かったことや考えたことを根

拠を示しながら説明できるようにする指導が引き続き大切である。例えば、読み取った情報を資料の該当部分を引用して説明したり、分かったことや考えたことを資料などの情報を根拠にして説明したりできるようにしていくことである。また、学習した用語・語句を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにしていくことも大切である。

#### (2) 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実

①社会的事象に関する基礎的な知識については、授業の中で繰り返し指導したり、用語・語句の意味に留意して指導したりして、確実に身に付けるように指導していくことが大切である。例えば、第3学年及び第4学年「47都道府県の名称と位置」、第5学年の「世界の主な国の名称と位置、我が国の位置と領土」などについて、白地図上に表したり授業や日常生活の中で地図帳や地球儀などを活用して確かめたりして身に付けるよう

にすること、身に付けた知識を活用して地理的位置などを表現できるようにすることである。

また、第6学年の歴史学習において、明治期以降のほぼ同時期に活躍した人物の業績を対比して取り上げたり、歴史上の主な事象に関する用語・語句の意味を確認したりして、正しく理解するように指導することや、国会、内閣、裁判所のそれぞれの働きを表に整理したり三権相互の関連を図に整理したりして、知識を確実に身に付けるように指導することも大切である。

②資料から情報を読み取る技能については、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導して、社会的事象に関する情報を的確に読み取ることができるようにしていくことが大切である。例えば、グラフの種類に応じた読み取り方、地図の読み取り方、2つのグラフなど複数の資料や地図とグラフなど種類の異なる資料を関連付けた読み取り方などを指導していくことである。

③情報を効果的に活用する技能については、必要な資料を選んだり吟味したりできるようにしていくことが大切である。例えば、学習問題の解決に必要な資料を選ぶこと、グラフの標題や単位、出典など資料として備えるべき条件などを考えることを指導していくことである。また、情報を整理したり組み合わせたりして目的を明確にして発信することについても引き続き指導し、情報を効果的に活用できるようにしていくことが大切である。

なお、情報機器の活用に当たっては、ルールやマナーについても指導することが大切である。

#### (3) 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実

①社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しをもつようにする指導が引き続き大切である。例えば、資料を丹念に読み取って学習問題を見だし、その学習問題について予想したことを基に調べる事柄や方法を決めて学習計画を立て、問題解決の見通しをもたせる指導を充実して

いくことである。

②学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味(目的、働きなど)を考え表現できるようにする指導が大切である。例えば、学習問題の解決に向けて学習したことを整理し、社会的事象の意味を考え、言葉や文で表現できるようにしていくことである。また、理解したことや学習の仕方を振り返り、学習成果や自分の成長を自覚できるようにしていくことも大切である。

#### (4) よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実

①社会の一員として、社会的事象の意味を考えようにする指導が引き続き大切である。例えば、学習したことを基にして、社会的事象の意義や現代社会の課題を見いだしたり、社会的事象と自分たちとのつながりを考えたりして、社会の一員として、社会的事象の意味について討論や話し合いができるよう指導を充実していくことである。

②社会的事象への関心を高め、主体的、協働的に学ぼうとする態度を養う指導が大切である。例えば、関係者から直接話を聞く、身近な事例を新聞記事等から取り上げる、地域の人々に取材したりするなど、身近な題材を取り上げて体験的な活動を工夫していくことにより、社会的事象に自ら関わり主体的に学ぼうとする態度や、友だちと関わり合いながら協働的に学ぼうとする態度を養うことである。

③社会的な見方や考え方を養い、社会生活についての理解を図る指導が大切である。例えば、地図や年表を活用して、社会的事象を空間的、時間的に見たり、様々な立場や視点から社会的事象を関係付けて見たりして、社会的事象の意味を多面的・総合的に考え、公正に判断できるように指導していくことである。そのことにより、人々が相互に関わりをもちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てるようにしていくことが大切である。

# 「水問題」から考えるこれからの小学校社会科学習

— 日英教科書比較「水」に関する学習内容の分析を通して —

共栄大学専任講師 **佐藤 克士**

## はじめに

水は、あらゆる生命体の起源であり、われわれ人間の命を、直接的にも間接的にも支えている最も重要な資源である。これは誰もが認める不変的事実である。しかし、日本では蛇口をひねると、いつでもあたりまえのように直接飲める安全な水が豊富に出てくる。このように水に不自由しない生活に慣れると、「水ほど大切なものはない」という不変的事実はいついつい忘れ去られ、いつまでも安全で豊富な水が供給され続けると思い込むようになる。かつてイザヤ＝ベンダサンは、著書『日本人とユダヤ人』の中で、「日本人は水と安全はタダだと思っている」と指摘した<sup>(1)</sup>。安全については、近年、凶悪犯罪や自然災害の多発により、人々は「安全はタダではない」ことを認識しつつあるが、水だけは相変わらず「タダである」と誤認し、「日本は水が豊かである」と信じて湯水のごとく使っている現実がある。しかし、このような認識や状況はあたりまえではない。ひとたび世界に眼を向けると、そのことに気づかされる。例えば、2012年に開催された国連持続可能な開発会議（リオ+20）では、依然として「安全な飲料水にアクセスできない人が10億人、衛生的な環境にいない人が26億人存在する」と報告されている<sup>(2)</sup>。また、人間の生命維持の他に、農業、健康、衛生、物流、土木等、あらゆる営みの根幹にかかわる水資源の確保をめぐることは、多くの国々の間で今なお争いが続いている。かつて、元世界銀行副総裁のイスマイル＝セラゲルディンは、「21世紀は水の世紀」と予言したが、現在そ

の予言通り、世界の水問題は深刻化し、この言葉（予言）は、水不足・水汚染・水紛争を包括する概念としてしばしば使われるようになってきている<sup>(3)</sup>。現在、水資源の確保は国の存続にかかわる最重要課題であり、世界の国々はその課題解決に向け国を挙げて取り組んでいる。

小学校社会科では、このような水資源の確保をめぐる現代社会の現実（以下、「水問題」）を理解させる学習内容を保証してきたらうか。本稿では、このような問題意識のもと、平成20年版学習指導要領に基づく検定教科書において、水に関する学習（以下、「水の学習」）がどのように展開されているのかを、社会系教育学会において、高く評価されている英国地理テキストブック<sup>(4)</sup>と比較することを通して検討していくこととする。具体的には、日英両国の初等段階における同一単元の学習内容を比較することを通して、内容構成やカリキュラム編成原理の異同に明らかにするとともに、これからの小学校社会科学習のあり方について検討していきたい。

## 2 わが国の小学校社会科における教科書の内容構成：単元「水はどこから」

わが国の小学校社会科では、「水の学習」がどのように展開されているのだろうか。ここでは、教育出版『小学社会3・4下』（平成27年版）（以下、教科書<sup>(5)</sup>）を分析対象として内容構成を明らかにしていく。教科書において「水の学習」は、大単元「健康なくらしとまちづくり」の小単元「水はどこから」の中で学習する設定となっている。具体的には、「水道の水は、どこから、どうやっ

第1表 単元「水はどこから」の内容構成

主 題	学習課題
1日に使う水の量を調べよう	わたしたちは、1日に、どれくらいの量の水を使っているのだろう。
水が送られてくる道を調べよう	わたしたちが使う水は、どこから送られてくるのだろう。
浄水場を見学して調べよう	浄水場は、どのようなはたらきをしているのだろう。
ダムや森林のはたらきを調べよう	ダムや森林は、どのようなはたらきをしているのだろう。
水源を守る取り組みを調べよう	水源を守るために、どのような取り組みをしているのだろう。
水をむだにしないくふう	水をむだにしないために、どのようなくふうをしていけばよいだろう。
使ったあとの水のゆくえを調べよう	使ったあとの水は、どこへ行くのだろう。 【まとめる】 ①水道の水は、どのようにして自分のもとに送られてくるのか、説明しましょう。 ②水道の水を、必要なときに、いつでも使えるようにしておくためには、どのようなことが大切でしょうか。考えをノートに書きましょう。
【深める】 くらしの見直しをよびかける 言葉を考えよう	【考える手がかり】 ■ごみをへらし、節水するために、自分のくらしのどのようなところを見直したらよいのだろう。 ■ごみを処理したり、水道の水をつくったりする仕事は、自分の生活とどのようにかかわっているだろう。

（(5)をもとに作成）

て送られてくるのだろう。また、人々は、水道の水をどのように使っているのだろう。」という学習問題について、見開き2頁ごとに明示された学習課題に取り組むことを通して理解する構成となっている。各頁に設定されている学習課題は、第1表の通りである。

第1表のように、本単元では、水道の水は、山の中、森林（川）→湖・ダム（川）→浄水場（水道管）→蛇口（水道管）の順に送られてくること、また人々は水道の水を飲料水、洗濯、トイレ等に使っていることを理解する展開となっている。これらの展開は、『平成20年版小学校学習指導要領解説 社会編』（以下、学習指導要領）に示されている内容<sup>(6)</sup>を踏まえた内容構成となっていることから、他社の教科書にも同様の傾向が見られることが推察される。

以上のように、わが国の「水の学習」では、学習者と（身近な地域の）水とのかかわりを軸に地域社会の水事情について理解を深める構成に特徴を見出すことができる。具体的には、自然の恵み

である水は、浄水場や市の職員等多くの人々の工夫や努力によって支えられていることを共感的に理解することを通して、これまでの学習者の生活を反省的に見直させるとともに、地域社会の一員として自覚をもたせることをめざす構成となっている。

## 3 英国初等地理科におけるテキストブックの内容構成：単元「Water」

英国の初等地理科では、「水の学習」がどのように展開されているのだろうか。周知の通り、英国では、わが国のように地理・歴史・公民を統合した社会科という教科は存在しない。初等段階からこれら独立した教科を個別に学習するしくみになっている。そこで本稿では、「水の学習」が設定されている初等地理科Y5（9～10歳対象）の単元「Water」に着目し、その学習内容をわが国のそれと比較することとしたい。具体的には、OXFORD UNIVERSITY PRESS社『Geography Success 3』（以下、テキストブック<sup>(7)</sup>）を分析対

第2表 単元「Water」の内容構成

主 題	アクティビティー
私たちが水が必要である	1 一週間、あなたが使用する水の全ての使い方について日記をつけなさい。例えば、手を洗ったり、トイレの水を流したり、植物に水を与えたりすることを含みます。 a：あなたの結果を記録用紙（表）に記録しなさい。 b：あなたの学級の友達とあなたの結果を話し合いなさい。あなたが使用する水をどれくらい少なくすることができるでしょうか。
	2 あなたは遠い惑星に向かって行くことを想像しなさい。その惑星に水はないので、あなたは水の供給物を持って行かなければならなくなるでしょう。あなたが水を必要とするものについて文章か絵で書（描）きなさい。
	3 水はどのように、あなたの地域で人々が楽しむために使われていますか。水が娯楽活動のために使われている場所の一覧を作りなさい。また、それぞれの場所を示すために絵を描きなさい。
あらゆる場所の水	1 ここで地図クイズです。地図帳を使って、問題に答えなさい。 a：英国とフランスとポルトガルの西海岸沖の海洋の名称は何ですか。 b：英国とアイルランドの間の海の名称は何ですか。 c：日本と北朝鮮の間の海の名称は何ですか。 d：アフリカの東側の海洋の名称は何ですか。 e：名称に色をもつ3つの海を見つけなさい。 f：もし、船がオーストラリアのシドニーから最短距離で英国のロンドンに航行するなら、どの海洋や海を横断しますか。
	2 あなたの学校と運動場の設計図の略図を作りなさい。学校の周りを歩き、あなたの設計図に蛇口、水道、溝、縦樋を含む水が動く全ての場所に印を付けなさい。
	3 地図帳を使って、雨量の多い5カ国と雨量の少ない5カ国を見つけなさい。そして、あなたの結果を学級の友達と比較しなさい。
水の供給	1 10リットルの水が入るバケツであれば、平均的な4人家族では1日にどれくらいバケツの水を使用することになりますか。また、1年間ではどれくらいバケツの水を使用することになりますか。
	2 a：あなたの家にはどれくらい蛇口がありますか。温水と冷水は別々に数えなさい。 b：もし、あなたの家でお湯がなかったら、あなたはどのように凌ぎますか。 c：もし、あなたの家や街路に蛇口がなかったら、あなたが直面する問題とは何ですか。
	3 a：汚水と下水道の違いとは何ですか。それが何を意味するのか、それぞれの意味を1～2の文章で書きなさい。 b：汚れた水が下水処理場でどのようにきれいにされるのかを発見することを手助けするために、参考図書やインターネットを使いなさい。また、フローチャートを描きなさい。 c：海の下水は、どれくらい有害なのですか。
	4 汚れた水を作るために、プラスチックの水差しに少量の土と水を混ぜなさい。そして、汚れた水をきれいにするための濾過材として最高の材料とは何かを見つける実験をしなさい。
砂 漠	1 夏のサハラ砂漠の日陰で、58℃の気温が記録された。暖かい日の日なたと日陰の気温のちがいを測り、その結果を記録しなさい。
	2 a：もし、あなたが旅行でサハラ砂漠に行くとしたら、あなたが一緒に持っているであろうものを列挙しなさい。 b：あなたが砂漠で会うであろう問題とはどのようなものですか。あなたはそれらをどのように対処しますか。
	3 砂漠にいる植物と動物の生活についての本を作って説明したり、学級に展示したりしなさい。その際、参考図書やインターネットを使いなさい。

砂 漠の人々	1 遊牧民は決まった家を建てない。それはなぜだと思いますか。
	2 a：砂漠にいる人々は、どのような服を着ていますか。 b：その服はどのような色ですか。 c：その服はどのような素材から作られていますか。 人々が着ている服の種類がちがいを絵に描きなさい。
	3 砂漠地域で暮らす人々の種類について発見するために参考図書やインターネットを使いなさい。 a：作られている家は、どのようなものですか。 b：なぜ、砂漠地域にある多くの家が白く塗られているのですか。 c：なぜ、彼らの家は、厚い壁と小さな窓で作られているのですか。
	4 さまざまな種類の砂漠の家の写真を集め、それらの写真を学級に展示しなさい。
熱帯雨林	1 友達と一緒に作業しなさい。なぜ、熱帯雨林に住む人々が少ないのか、その理由について話し合い、そして、あなたが下した結論を書きなさい。
	2 あなたの地元と熱帯雨林を比較するための図を作りなさい。天気、植物、動物、風景、人々等の見出しを使いなさい。
	3 アフリカや南アメリカのような熱帯雨林の場所を見つけ、それぞれの大陸を調査しなさい。 a：そこでは、どのような気候のちがいが見つかりますか。 b：気候は、人々が着る服の種類や家の建て方にどのように影響を与えているのですか。また、育てる作物と家畜はどのように異なるのですか。
干ばつ	1 ニュースに出ている干ばつと飢饉の場所を大きな世界地図に印を付けなさい。
	2 あなたが生活している場所で、干ばつが起こった場合を想像しなさい。あなたはどれくらいたくさん節水の方法を考えることができますか。あなたが考えたそれらの方法を重要な順に書きなさい。
	3 一部の新聞は、大きな町と都市の1日の雨量を示している。 a：大きな町と都市の1週間の雨量を集め、表に記録しなさい。 b：最も湿度の高い町または都市を上段、最も乾燥した町または都市を下段にして一覧表を作りなさい。 c：地図帳を使って、これらの町と都市に地図に印を付けなさい。あなたは何か気づきましたか。
安全な水	1 班の友達と作業しなさい。バケツに5リットルの水を注ぎなさい。遊び場の周りにそれを交代で撒きなさい。 a：バケツの水の重さがどれくらいかをあなたの友達の一人ひとりに尋ねなさい。 b：そうしたら、バケツの水を量り、皆の答えを記録しなさい。 c：バケツの水を12km運ばなければならないことを想像しなさい。それについて、あなたがどのように思うのか、感じることを記録しなさい。
	2 あなたは、通りの反対側の井戸から家族のために全ての水を集めなければならないことを想像しなさい。これは、あなたの家の暮らしをどのように変化させますか。
	3 参考図書やインターネットをもとにコレラについて調べ、理解しなさい。人々が未だにコレラを患っている2つの国の名前を見つけなさい。
水は誰のものか	1 きれいで安全な水が不足している国の水のために、お金を集める計画を手助けするためのポスターを立案しなさい。
	2 あなたの家の水道使用料金（請求書）を見なさい。あなたが支払わなければならない金額はどれくらいですか。水会社の請求金額には、どのようなことが含まれていますか。
	3 あなたはどれくらいの無駄な水が蛇口からしたり落ちているか計算することができる。それが丁度したり落ちるまで、冷水用蛇口を開けなさい。蛇口の下にバケツを置き、1時間にどれくらいの水がバケツにしたり落ちるかを量りなさい。1日、1週間、1年間では、どれくらいの水がしたり落ちますか。
	4 友達と一緒に作業しなさい。他の国は、定期的に水不足になる国に対してどのように援助することができるか話し合い、あなたの考えを書きなさい。

((7)をもとに作成)

象として内容構成を明らかにしていく。同テキストブックにおいて単元「Water」は、全9小単元(全16頁)で構成されている。これは、わが国の教科書とほぼ同じ分量である。また、テキストブックの基本構成に関して、見開き2頁で一つの主題(テーマ)を学習する構成となっている等、わが国の教科書と類似している点が多く見られる。

一方、各主題(小単元)で学習者に取り組みたい内容が「アクティビティー」として設定されている点や、単元全体を通して学習する内容(単元構成)に関しては大きなちがいが見られる。例えば、「アクティビティー」については、わが国の教科書には見られない具体的な問いや作業指示が明示されており、これら問いや作業指示に取り組むことで一定の認識(理解)が形成される構成となっている。各主題(小単元)の「アクティビティー」は、第2表のように整理される。また、単元構成に関しては、身近な地域の水→砂漠地域の水→熱帯雨林地域の水→干ばつ地域の水のように、世界のさまざまな地域の水事情を学習する展開となっている。

第2表のように、本単元では、学習者は身近な存在である水の存在をめぐり、地域(国)によって水事情が異なること、また水資源の確保をめぐりさまざまな問題(「水問題」)を抱えている地域(国)があること等を理解させることを通して、定期的に水不足に陥る国やより貧しい国々に対する現実的に可能な援助について考えさせる構成となっている。このような展開は、学習者と(身近な地域の)水とのかかわりを軸に展開するわが国の「水の学習」とは大きく異なる特徴である。すなわち、水を“窓”にして世界のさまざまな地域社会を理解する構成となっている。

これらのちがいは、わが国の小学校社会科が第3学年は市、第4学年は県、第5学年は国土、第6学年は世界というように学年進行に伴って学習対象地域を順次空間的に拡大していく「同心円の拡大法」<sup>⑧</sup>という原理に基づいて単元設計がなされているのに対して、英国のそれは、自分が居住す

る場所周辺の地域社会(身近な地域社会)だけでなく、同じスケールの国内外の地域社会をも学習する「多核的同心円拡大法」<sup>⑨</sup>と呼ばれる原理に基づいて単元設計がなされている点に見出すことができる。また、このようなちがいは「水の学習」だけでなく、他の単元でも見られる特徴である。

## 4 終わりに

本稿では、水資源の確保をめぐる世界各国で「水問題」が深刻化する中で、社会科でそのような内容を理解させる学習内容が保証されているのかを、わが国と英国の初等段階における「水の学習」を通して検討してきた。両国の「水の学習」を比較することを通して、これからの小学校社会科学学習を考える際に重要と思われる点は、以下の2点である。

第1に、「水の学習」を通してどのような理解や能力の育成をめざすのか、という点である。わが国のそれは学習者と(身近な地域の)水とのかかわりを軸に、それを支える人々の工夫や努力について理解を深め、それらをもとに学習者自身がこれまでの生活を反省的に見直すことができる能力の育成がめざされていた。一方、英国では身近な存在である水の存在をめぐり、地域によって水事情が異なること、また水資源の確保をめぐりさまざまな問題(「水問題」)を抱えている地域があること等の理解をもとに、定期的に水不足に陥る国やより貧しい国々に対してどのような援助が可能かを考えることができる能力の育成がめざされていた。学習指導要領では、持続可能な社会の実現をめざし、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うことの重要性が指摘されている<sup>⑩</sup>。その際、「水の学習」を通して地域社会の理解や自己の生活を見直すといった狭い範囲に限定した思考力の育成に留まらず、世界の異なる地域社会のさまざまな水事情を理解することを通してグローバルな視野でこれからの社会における持続可能な水のあり方について思考することができ

る能力の育成をめざす英国の「水学習」の展開は示唆に富む。具体的には、水資源の確保をめぐる「水問題」を地球的規模の視野でとらえさせることを通して、それらで獲得した知識を総動員して「水問題」の解決に向けて多面的・多角的に検討させる構成は、学習指導要領がめざす資質や能力の育成に応える内容となっているといえよう。

第2に、学習対象である水をどのようなスケールでとらえるか、という点である。わが国の「水の学習」では、日本の学習者の身近な地域社会の水だけが学習対象であり、ここではローカル・スケールでとらえられている。しかし、英国のそれは、学習者の身近な地域社会の水だけでなく、北アフリカ(サハラ砂漠)、ブラジル(アマゾン)、スーダン(飢饉救済キャンプ)、インド(コルカタ)等、英国以外の特徴的な水事情の地域についても同じ規模(ローカル・スケール)でとらえる構成となっている。これらの学習を通して、学習者は居住地だけでなく、世界各地の国々の位置や様子を理解する構成となっていた。社会科学学習を通して身につけさせたいものが、空間軸、時間軸、社会(人間)軸であるとするならば<sup>⑪</sup>、英国のように初等段階から世界について扱うことは、望ましい世界像(空間軸)を形成する上で極めて有効な内容構成であると判断できる。

最後に、戦後一貫して用いられてきた「同心円の拡大論」の限界<sup>⑫</sup>が指摘される現在、これからのわが国の小学校社会科学学習のあり方を考えていく上で英国初等地理教育に学ぶ点は多い。次期学習指導要領の改訂を睨んだ上で、持続可能な社会の形成者を育成していくための内容構成やカリキュラム編成原理について、いま一度検討していく必要性が指摘できる。

### 【註及び参考文献】

- (1) イザヤ=ベンダサン『日本人とユダヤ人』山本書房、1970年、pp.9-25.
- (2) 外務省「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」(閲覧日2015年6月10日)  
(URL) [http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyorio\\_p20/gaiyo.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/kankyorio_p20/gaiyo.html)

- (3) 財団法人日本ダム協会「21世紀は『水の世紀』」(閲覧日2015年6月12日)  
(URL) <http://damnet.or.jp/cgi-bin/binran/B/TPage.cgi?id=191>
- (4) 志村 喬『現代イギリス地理教育の展開―「ナショナル・カリキュラム地理」改訂を起点として―』風間書房、2010年。  
英国では、日本のような教科書検定制度や教科書使用義務はなく、テキストブックはあくまで学習材の一つとして位置づけられている。すなわち、わが国の教科書とは位置づけがちがうことから、ここでは志村の見解に従いテキストブックとした。
- (5) 有田和正、石 弘光監修『小学社会3・4下』教育出版、2015年、pp.60-75.
- (6) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』東洋館出版、2008年、pp.30-31。  
具体的には、「(飲料)水は、炊事、洗濯、風呂等の家庭生活や商店、工場等の産業、学校等様々な場面で使われ、市全体では大量に使用されていることや、必要な量の飲料水がいつでも使えるように確保されていること」、[(飲料)水の確保については、需要の増加に対して、水源を確保・維持するために、森林が保全されていること、ダムや浄水場等の建設が計画的に進められていること、それらの対策や事業は、他の市や県の人々の協力を得ながら行われていること、地域や人々も節水や水の再利用などに協力していること]等の内容が示されている。
- (7) Terry Jennings, Geography Success 3, OXFORD UNIVERSITY PRESS, 2002年、pp.4-21.
- (8) 寺本 潔「地理教育の内容」、村山祐司編『21世紀の地理』朝倉書店、2002年、pp.81-84.
- (9) 前掲(4)、p.30  
志村は、この多核的同心円拡大法原理に基づいてカリキュラム編成すれば、初等教育の早い段階から狭い空間的範囲にせよ、居住している場所だけでなく、世界各地を学習し、世界像を構築することになると指摘している。
- (10) 前掲(6)、pp.3-4.
- (11) 吉水裕也「科学的探究と空間的投影、そして地理的スケール概念による考察―学習方法・学習活動の観点から」、『地理』第56巻3月号、古今書院、2011年、pp.35-39.
- (12) 前掲(8)、pp.81-84。  
寺本は、わが国が採用している同心円の拡大法に関して、「国際化やグローバル化が急速に進展しつつある今日において、地球や世界についての大きな表象を形成することができず、あたかも『精神の鎖国』を強いる構成になっている」と指摘している。

# 小学校の歴史学習で大切にしたいこと

— 「明治維新」の実践を通して

東京都世田谷区立塚戸小学校 なかだてこうた 中楯浩太

## 1 はじめに

NHK大河ドラマ『花燃ゆ』をご覧になっているだろうか？視聴率低迷問題で一時話題になったこともあったが、私にとっては、そんなことなどこ吹く風。ドラマで描かれる吉田松陰の思いやその志を受け継ぐ弟子たちの生きざまだけでなく、それを支える主人公の杉文や家族の存在、またそれを取りまく激動の世界情勢に心弾ませながら視聴し続けてきた。

この番組は、小学校の歴史学習を展開するうえで重大な示唆をいくつも与えてくれた。一つは、歴史的事象を多面的にとらえることの大切さ（松陰と妹の文・家族、長州藩と他藩・幕府、日本と外国など）。二つは、当時の課題を乗り越えようと努力した人々のはたらきを中心に共感的に学ぶこと。三つは、学んだことを自分の生き方にどのように生かすか考えること。これらの視点を生かしながら、第6学年の「明治維新」の学習を実践したいと考えた。

## 2 「歴史を学ぶ意味」を考える学習とは

小学校学習指導要領の内容には、「歴史を学ぶ意味を考えるようにする」と示されている。それは、「国家・社会の発展の基盤」や「過去のできごとを現在及び将来の発展に生かす」ことを考えることだと解説されている。

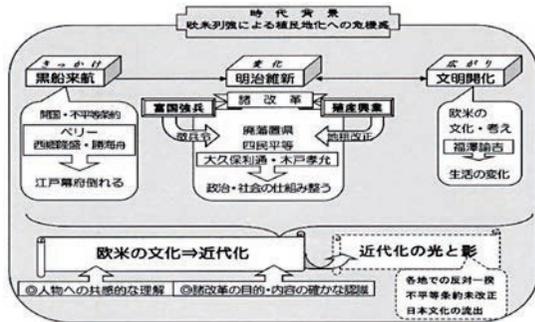
本小单元では、「黒船の来航」「明治維新」「文明開化」などを調べて、「廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めた」ことが分かることをねらいとして

いる。つまり、激動の時代を経て、国が新しく切り上げられた時代だといえる。

従って本実践では、上記の視点とともに「国づくり」という柱で学習を構成することで、「歴史を学ぶ意味」を考えられる実践を提案したい。

## 3 指導計画と手だて

指導計画を立てる前に、教材の構造をとらえるために次のような教材内容の関係を整理した図を作成して、構想を練った。



▲資料1 教材内容の関係を整理した図

この図をもとに、学習過程を全8時間で次のように設定した（指導計画の詳細は資料2を参照）。

つかむ	① 時代の変化への関心 ② 黒船来航と開国 ③ 江戸幕府の滅亡 → 学習問題の設定
調べる	④～⑤ 人物の業績と明治政府の諸改革 ⑥ 文明開化
まとめる	⑦ 学習問題の解決
深める	⑧ 「国づくり」の価値判断

主な手だては、次の通りである。

- 「国づくり」の視点を持ち、問題意識が醸成できる導入資料の工夫。
- 「多面的」な理解が図れるように作成した「明治の国づくりの課題」の資料化。

- 「学んだことを自分の生き方に生かせる（＝歴史を学ぶ意味が考えられる）」ような価値判断場面の設定。

	○主な学習活動・内容 ●発問	□資料 ☆評価
つかむ (3)	① 2点の資料を比較して「時代の変化」について調べる。→3点めの資料 ・徳川慶喜 明治天皇 和風→洋風 ○略年表で「変化のきっかけ」について調べる。 ・黒船来航 幕府滅亡 明治維新 ② 黒船来航や当時の日本の置かれた状況、江戸幕府の対応について調べる。 ・来航の目的 アジアの植民地化 ③ 江戸幕府が滅びた原因や過程について調べ、学習問題を設定し、学習計画を立てる。 ・世直し一揆 薩長同盟 倒幕運動 ・大久保利通 西郷隆盛 木戸孝允 ● どうしても追究すべき問題は？ 学習問題 明治時代の人々はどのような国づくりを目指したのだろうか？	□ 「大政奉還」⇔「大日本帝国憲法発布式」に関する絵画資料の比較⇒「江戸城入城」絵画資料⇒幕末～明治期の略年表 ☆ 時代の変化に関心を持ち、資料を比較しながら意欲的に調べている。[関①] ☆ 当時のわが国の状況や黒船来航により、江戸幕府が条約を結び開国したことを理解している。[知①] ☆ 「時代の変化、黒船来航、江戸幕府滅亡」などの事象を関連させて、学習問題や予想を考えたり、自分なりの見通しをもって学習計画を立てたりしている。[思①]
調べる (3)	④ 調べる視点を明確にして人物の業績を中心に調べ、メモをする。 ⑤ 国民の生活や考え方の変化について調べて、メモをする。 ⑥ メモをもとに図解化してまとめる。	□ 「教科書・資料集・各種図書資料」 ☆ 人物の業績について情報を集め、まとめることができる。[技①] ☆ 人物の働きと諸改革、文明開化との関連を考えてまとめることができる。[技②]
まとめる (1)	⑦ 学習問題に対して調べたことを総合して考えて解決を図り、「自分の考え」を書く。 ※ 「自分の考え」を書く視点の提示 ≪明治時代の新しい国づくりについて≫ ≪人物の果たした役割について≫ ≪自分の生き方や社会と関連させて≫	☆ 明治時代の国づくりについて総合的に考え表現している。[思②] ☆ 人物が果たした役割が具体的に書けている。[知②]
深める (1)	⑧ 明治の国づくりの課題について調べ、よりよい国づくりのあり方について考える。 ・反対一揆 日本文化の流出等 ● 「国づくりにとって大切なことは？」 ○ 「よりよい国づくり」について価値判断したことを意見文で表現し、意見交換する。	□ 「諸政策への反対一揆」「文明開化の広がり」の格差「不平等条約の未解決問題」「浮世絵の海外流出」等の残された課題に関する資料 ☆ 明治の国づくりのよさと課題を生かして（根拠にして）よりよい国づくりのあり方について考えようとしている。[関②]

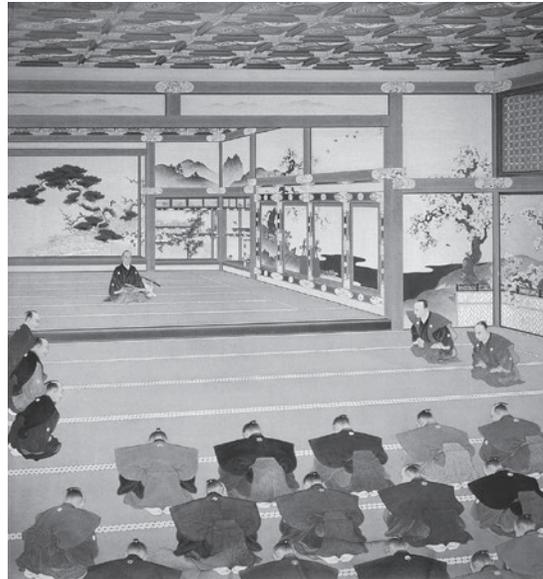
▲資料2 指導計画

## 4

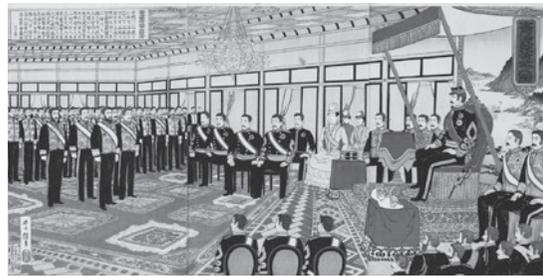
### 指導の実際と子どもの反応 ～「つかむ」、「深める」場面を中心に

#### (1) 「つかむ」＝学習問題の設定

まず、以下の2点の資料を順番に提示し、比較しながら読み取らせる。



▲政権を返還する徳川慶喜（明治神宮外苑聖徳記念絵画館蔵）



▲大日本帝国憲法の発布式（早稲田大学図書館蔵）

服装、建物内部、人物たちの様子など具体的に読み取ることで、「和風から洋風化した」と全体的に社会が変化したことに気づく。また、多くの子どもたちは「中心の人物の様子が変わった」と人物に着目する。

次に、2点の資料が約20年の間のできごとであることや、それぞれの中心人物が前者は江戸幕府の将軍、後者は天皇であることを教え、3点めの資料を提示した。



▲江戸城に入る天皇の一行（明治神宮外苑聖徳記念絵画館蔵）

「京都に住んでいた天皇が江戸城に移り住む」時の様子であることを説明すると、次のような疑問が生まれた。「天皇がどうして江戸城に住むことになったの?」「江戸幕府はどうなったの?」「中心の人物が変わって、新しい時代はどうなったの?」

そこで、略年表（資料省略）を調べることで、「鎖国が終わり開国したこと」「江戸幕府が減じたこと」「明治新政府が誕生したこと」「多くの人物が活躍したこと」をつかんだ。

「時代が変化したきっかけとして、どんなことが考えられるか?」と問うと、「ペリーの来航」や「貿易」というキーワードがあがったため、次時で調べることにした。

ペリー来航の目的やアジアが植民地化されていた状況、江戸幕府の対応について調べることで、「植民地化されてしまいそうな状況の中で江戸幕府はどうしたのか?」「江戸幕府とちがって、明治政府はどんな政治を行ったのか?」という問題意識に変化していく。

次時で倒幕運動による江戸幕府の大政奉還を理解し、これまでにあげられた疑問から学習問題を

設定する活動を行った。

個々の質の異なる疑問を出し合った後、「追究しなければならない問題」に焦点化して話し合わせることで、「明治時代の人々は、どのような国づくりを目ざしていったのだろうか?」という問題を発見（学習問題化）することができた。

#### (2) 「深める」＝歴史を学ぶ意味を考える

「調べる」「まとめる」段階では、「人物の業績と明治政府の諸改革」「文明開化」について調べて「明治維新ワークシート（図解化）」にまとめた。

「深める」段階では、まず前時に書いた「自分の考え」を発表し合い、人物たちのはたらきが近代国家の成立に大きな役割を果たしてきたことを共有した。

「明治時代に活躍した人は、日本を大きく変えた人だから、すごいし、変えてくれてよかった。なぜなら、ここで日本を富ませて強くしようとしてくれたおかげで、今の日本があるからです。」や「今までは、藤原道長や織田信長のように有名な人が世の中を動かしていたけど、明治時代はちがいで、たくさんの人々の努力によって政治が成り立ち、国を支えていた。明治新政府はすごい。」などといった考えが出された。

これはつまり、当時の課題を乗り越えようとして生きてきた先人のはたらきを共感的に理解することができた反応だといえる。

次に、明治時代の国づくりについて、「思い通りに進められたのかな?」と問うことで、子どもの認識に揺さぶりをかけた（「まとめる」までの段階では、あえて国づくりの成果に絞って調べ学習を進めてきた）。予想をした後、「実際はどうだったのだろうか?」という問題意識をもち、国づくりの課題や影の部分について『文明開化はどこまで?』『明治時代の近代化の裏には…』と題したオリジナルに作成した補助資料をもとに調べさせた（資料省略）。

「明治時代の国づくりでは、うまくいったことばかりではなく、課題もたくさんあったんだ。」という子どもの反応からは、一つの時代を成果と課題の両側面から多面的にとらえることができ、社会認識が深まっていることが分かる。

深まった社会認識を生かして、「明治時代の国づくりから学べる、国づくりにとって大切なことって何?」と問い、「国づくりのあり方」について価値判断して意見を交換する場面を設定した。これまで学んできたことを根拠にして生かしながら、以下のように考えた。

「国をつくっていくには、国民の協力が必要だから、さまざまな人々の立場を考えて、支持が得られるようにすることが大切だ。」「どんな政策にも必ず反対する人たちがいるはずだから、目先のことだけでなく後々のことも考えた方がいい。」「国づくりで外国のよい文化を取り入れていくことは大切だけど、歴史のある日本の文化をもっと大切にしていきたいと思う。」

これは、先人の業績と国づくりの過程で生じた課題とを多面的にとらえ、自分なりの価値判断をしたすがたといえる。さらに、現代の「国づくり」のあり方をも視野に入れ、考えを交流している。

## 5

### おわりに

本実践の提案の主旨をまとめる。

小学校の歴史学習で「歴史を学ぶ意味」を考えられるようになるためには、「人物のはたらき」を共感的につかませ、「多面的」に事実認識をさせることが大切である。そのうえで、子どもが「自分の生き方」につなげて考えられるように、小単元に応じた価値判断場面の設定を工夫したい。さらに、歴史学習において、小単元ごとに「現代につながる柱」で学習を構成することは、現代社会をも考える見方を育て、批判的思考力を育成するうえでもたいへん有効である。

# 「AなのにBなのは、なぜ」で 社会的な見方や考え方を育てる授業の提案

— 「対等につきあうために～明治政府が目ざした国づくり」

熊本市立五福小学校 よこやまゆきお 横山幸生

## 1 本実践の主張

現行の社会科学学習指導要領の改訂の趣旨に「社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する」とある。これまでの多くの社会科の実践では「いつ、だれが、どこで、なにを、どのように」行ったか、いわゆる4W1Hの学習問題でできごとを追跡していく学習が多かった。これは、社会的な事象に関する「知識・理解」は深まるものの、「社会的な見方や考え方」は成長しない。

そこで、本実践では、「AなのにBなのは、なぜなのだろう」という「Why」の学習問題で社会的な事象の意味を追跡する学習を行う。そうすることで、子どもは社会的な事象について深く「思考・判断・表現」し合うことになり、一人一人の社会的な見方や考え方の成長を促せると考える。

そこで次の2点を主張点として指導にあたる。

- ・ 切実感をもって追跡する学習問題の設定
- ・ 互いの「解釈」を「吟味」し合う言語活動の工夫

本実践の単元は6学年の「明治政府が目ざした国づくり」である。本実践のねらいは、明治政府が行った諸改革を通して日本が封建的な社会から近代国家へ発展していく様子をとらえることである。従来の学習では明治政府で活躍した特定の人物に話題を焦点化し、その人物に共感的理解を示しながらどのような業績を残したかを追跡していく学習が多かった。しかし、明治政府にはさまざまな人物が、さまざまなタイミングで入れ替わって登場しており、一人の人物を焦点化して明治時

代の全体像をとらえることは難しい。そこで、本実践では、これまでの人物学習を大切にしつつも、明治政府をさまざまな人物の意志の総体としてとらえ、この明治政府が目ざしたことと、その意図や背景、影響を考えさせることで、子どもたちが自分なりの明治時代観をもてるようにする。

### (1) 切実感をもって追跡する学習問題の設定

日本の近代化は、外圧によるいわば「上」からの改革である。つまり、「憲法」や「国会」といったものが、民衆の要求からというよりは、対外的要因による政府側の切実な思いとして取り入れられている。このような日本の近代化の特色を表しているのが、「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」である。これらは同じ年に公示されたものであるが、内容が正反対のことが書かれている。本実践では、子どもたちが切実感をもって追跡する主題を設定するために、この五箇条の御誓文と五榜の掲示の「ずれ」を切り口とする。

まずは、子どもたちに五箇条の御誓文を提示し、このことが具体的に実現された事例を調べていく。ここでは四民平等、憲法制定、学制などがあげられるであろう。そこで、五榜の掲示を提示する。すると次のような問いをもつであろう。

「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」は同じ年に出されたものなのに、なぜ全く反対の内容になっているのだろう。

明治政府が目ざした理想と現実には、大きなギャップがあった。五箇条の御誓文と五榜の掲示の「ずれ」は、それを示したものである。この問

いをきっかけとして、子どもたちは明治政府がこのギャップをどのように埋めようとしたのかを追跡していく。

この学習問題を追跡していくことで、明治政府がどのような国づくりを目ざしたのか、そして、それが国民に与えた影響を明らかにしながら、自分なりの明治時代観を創りあげていく。

### (2) 互いの「解釈」を「吟味」し合う言語活動の工夫

子どもたちは「五箇条の御誓文と五榜の掲示は同じ年に出されたものなのに、なぜ全く反対の内容になっているのだろう。」という学習問題を設定し、調べ学習を行う。

ここでの追跡は、「何をしたのだろうか」という「できごとの追跡」を行うのではなく、「できごと」を調べたうえで、「そのようなことを行った明治政府の意図は何だろうか」という「意味の追跡」を行わせる。よって、その後の話し合いの活動では、調べた「できごと」を発表するのではなく、「できごと」から考えた、それぞれの「解釈」を語り合う。その「解釈」は、それぞれの子どもが追跡する中で形成された「明治時代観」から紡ぎだされたものである。ここでの話し合いでは、その是非を問うのではなく、「なぜ、〇〇さんはそのような考えをもったのだろうか」という、互いの「解釈」を「吟味」し合う話し合いを行う。

そうすることで、自分とは異なる他者の「解釈」を自分の中に取り入れることになり、それぞれの「明治時代観」、つまり社会的な事象に対する見方や考え方がより多面的に成長すると考える。

そこで、話し合いの際には、自分の解釈を可視

化させるために、自分の解釈とその根拠となる資料をシートにまとめさせておき、それをもとに話し合いを行う。

シートにまとめる際には次のことに留意させる。

考えの根拠となる資料は、史実なのか、資料を書いた人の解釈なのかを明確にしておく。

子どもたちが手にする文献資料は一次史料ではない。その資料の作成者によって書き換えられたものである。それをそのまま引用してくることは、その資料作成者の史観を丸写しすることと同じであり、自分で「意味をつくりだす」ことにはならない。誰かの解釈が入っている場合には、別の資料からも同じことがいえるか、ということを考えさせるようにする。

## 2 単元の目標

- (1) 明治政府が行った諸改革に興味をもち、意欲的に調べようとする。
- (2) 明治政府が目ざした国づくりについて、政府や民衆等、さまざまな立場から考えることができる。
- (3) さまざまな資料をもとに、明治政府が目ざしたことを自分なりにまとめ、表現することができる。
- (4) 明治政府が外圧により、近代国家の早急な建設を迫られていたことが分かる。

### 3 指導計画（全10時間扱い）

学習活動	みんなで伸びるための教師の指導	時間
1 「五箇条の御誓文」を見て、明治政府が目ざした国づくりについて考える。	○「五箇条の御誓文」を提示し、各条文と具体的な政策を関連づけて考えさせることで、「五箇条の御誓文」に込められた明治政府の方針をとらえさせる。	2
2 「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」を比べて主題を設定する。	○「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」が同じ年に出されていることを知らせ、「なぜ同じ年に出されているのに、全く反対のことが書かれているのだろう」という課題意識をもたせる。	1
「五箇条の御誓文」と「五榜の掲示」は同じ年に出されたものなのに、なぜ全く反対の内容になっているのだろう。		
3 明治政府の政策について調べる。	○ 明治時代に関するウェブサイトを紹介したり、図書館司書と連携を図り、関連する資料を用意したりするなどスムーズに調べ活動が展開できるようにする。	2
4 調べたことを学習シートにまとめる。	○ 自分の考えを明確にして話し合いに臨めるように、考えとその根拠となる資料をシートにまとめさせる。	1
5 調べたことをもとに、明治政府が目ざした国づくりについて話し合う。	○ 友だちと考えを交流していく中で、明治政府に対して国民が不満をもっていたことに気づかせるとともに、不満を強引に抑えてまでも、さまざまな改革を行わなければならなかった背景を考えさせる。	3
6 学習をまとめる。	○ 「歴史新聞」を作成させることで、これまでの自分の学びをまとめさせる。	1

### 4 学習の実際

#### (1) 「明治政府」が目ざしたものは？

学習問題を設定するにあたっては、明治時代に入って新しい政治が始まったことと、それにもかかわらず明治政府が国民に対して要求したのは、江戸幕府のそれと変わらなかったという「ずれ」を明確にさせていく必要がある。

そこで、まず単元の冒頭で、明治政府の政治の方針を示したものとして五箇条の御誓文を提示した。

#### 五箇条の御誓文（書き下し文）

- ・政治は会議を開いて、意見を出し合って決めよう。
- ・国民はみんなが心を合わせて、国を盛んにしよう。
- ・国民みんなが満足できるような政治をしよう。
- ・これまでのよくないしきたりを改めよう。
- ・世界の知識を取り入れて立派な国にしよう。

子どもたちは「江戸時代と全くちがうね。」「新しい時代が始まったんだ。」という感想をもった。

そこで、「では、この五箇条の御誓文を実現するために、明治政府はどんなことをしたのだろうか。」と発問した。すると子どもたちは、教科書や資料集を調べ始め、次のようにつぶやきだした。「国会を開設して意見を出し合ったんだよ。」「四民平等でよくないしきたりを改めたんだ。」

このように、五箇条の御誓文と明治政府の政策を自分なりにつなげてとらえていった。明治政府が新しい政治を始めたことを共通理解したところで、五榜の掲示を提示した。

#### 五榜の掲示（書き下し文）

- ・弱者をいたわり、殺人など悪事をはたらいてはいけぬ。
- ・大勢で集まり、要求を通そうとしたり村から逃げ出したりしてはいけぬ。
- ・キリスト教を禁止する。
- ・外国人を殺してはいけぬ。
- ・生まれ育った土地から逃げ出してはいけぬ。

すると子どもたちからは、「えっ、五箇条の御誓文と反対のことが書いてある。」「江戸時代と変わらないよ。」という驚きの声があがった。

ある子どもが、「五榜の掲示は五箇条の御誓文よりも、ずっと前に出されたんじゃないかな。」と発言した。これを受けて、両者とも1868（明治元）年に出されたものであることを告げた。再び子どもたちから驚きの声があがり、「なぜ明治政府は全くちがうものを同時に出したのだろうか。」という疑問が出された。

この疑問から、「明治政府はどんな国づくりを目ざしていたのだろうか。」というテーマを設定し、追究していくこととなった。

#### (2) 外国に負けない国をつくりたかったのかな？

ここでは、それぞれが調べてきたことをもとに、互いの考えを交流し合い、問題に迫っていく。

子どもたちの考えをまとめると、大きく次の3点になった。

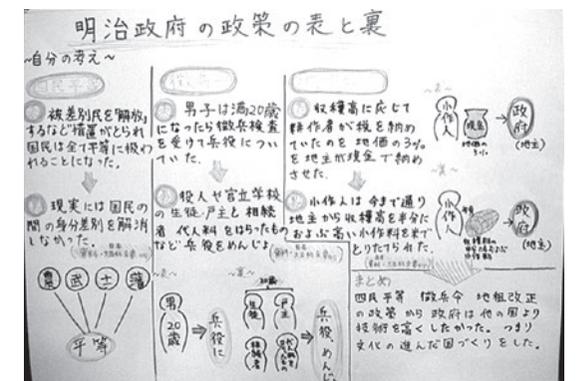
- 明治政府は、外国に負けない国づくりをしたい。
- 明治政府は、財政が豊かな国にしたい。
- 明治政府は、国民が自分たちの思い通りに動く国にしたい。

そこで、互いに調べてきたことをシートにまとめ、それをもとに意見の交流を行った。「アジアの国々が外国の植民地になったでしょう。だから、外国に負けない国にしたかったんだよ。」「そのためにはお金も必要だね。じゃあ、『外国に負けない国』と『財政が豊かな国』はつながっているね。」「外国に負けないためには徴兵令も必要だよ。でも、それに反対する人がいるから五榜の掲示で厳しく国民を支配したんだね。」

このように、「外国に負けない国」にするために、「財政を豊か」にして、「支配を強めた」という方向で話し合いが収束していった。

しかし、その中で納得のいかないような表情をしている子どもがいる。そこで、その子が納得できない理由をみんなの前で説明させた。「強くて、財政を豊かにして、支配を強めたのなら、五箇条の御誓文はいらないんじゃないかな。だって、議会を開いたら政府に反対する人も出てくる。」

この意見を聞いた子どもたちは、次のように発言をつないでいった。「なるほど、国民を思うように支配するには、江戸時代のままの方がいいも



▲言語活動の媒介となるシート

んね。」「じゃあ、どうして五箇条の御誓文と五榜の掲示の両方を出したのかな。」

### (3) 「明治国家」の切実な思いに迫る

一見、話し合いがふりだしに戻ったように感じるが、そうではない。一面的な考えが淘汰され、「明治政府」が目ざしたことをより深く考え始めたのである。ここではあえて発問や指示を行わず、機が熟すのを待った。しばらく沈黙が続いたあと、一人の子がこうつぶやいた。「外国に見栄を張りたいんじゃないかな。」

どうということか尋ねるが、「よくわからないけれど、日本はよい国だとアピールしているような気がする。」と曖昧な答えしか返ってこない。しかし、このつぶやきこそ、みんなの思考を深めるきっかけとなるものである。そこで、次のように発問した。

なぜ、〇〇君は「日本がよい国だとアピールしたい」と言っているのか、みんなで考えてみよう。

「五箇条の御誓文は、西洋の国々と同じような国づくりだよな。」「仲間だということをアピールしたかったのかもしれない。」「なるほど、仲間だと植民地にされないからだ。」「でも、一方では軍隊を強くしているから、仲間というより戦っても負けない国にしたいんじゃないかな。」「じゃあ、仲間になって貿易をしたいのかな。」

さまざまな意見は出るものの、みんなが納得するようなものは出てこない。そこで、グループで話し合うことにした。その中で、ノートを見ながら前時で学習した内容をふり返っていたグループが、次のような話し合いをしていた。「財政が豊かになるためには、税金も大切だけど貿易もしなければいけないよな。」「でも、その時の日本は西洋の国と貿易しても豊かになれないよ。」「そうか、不平等条約が改正されてないもんね。」「だから西洋と同じような国だということをアピールして、



▲前時の学習をふり返ってみよう

条約を改正したいんじゃないかな。」

そこで、グループの話し合いを中断し、みんなでもう一度前時の単元にもどることにした。「関税自主権がないから、自由に貿易ができなかったよね。」「条約改正をするため、西洋の国々の仲間入りしたことをアピールする必要があったんだ。」「逆に、急速に近代化しなければいけなかったから、国民を厳しく支配していったんだね。」「なるほど、明治政府も必死だったんだ。」

こうして、当時の日本が置かれていた状況を再確認しながら、明治時代に対する見方や考え方を多面的に変容させていった。

## 5 考察

子どもたちの認識に「ずれ」が生じるような学習問題を設定したことにより、明治政府の行った政策に対して、多様な解釈が生まれた。それを互いにかかわらせることにより、明治時代を多面的、多角的にとらえることができた。また、子どもたちの素朴な疑問やつぶやきを取り上げ、そのことについてみんなで考える場を設定し、前時の単元にもどって事象を見直すことで、個々の歴史的対象に対する解釈の「わかり直し」を促し、社会的な見方や考え方を高めることができた。

小学校教科書準拠

# 小学社会デジタル教科書

指導用 + 学習者用デジタル本文データ

## 教えやすく、学びやすい授業を支援します

### 3つの特徴

#### 1 教科共通で、だれでも使いやすいシンプルなデザイン

電子黒板での利用を考慮し、どのような立ち位置でも使いやすいデザインを実現。

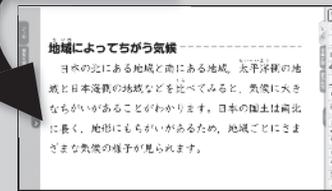


拡大・ペン機能など特によく使う機能にワンタッチでアクセス。



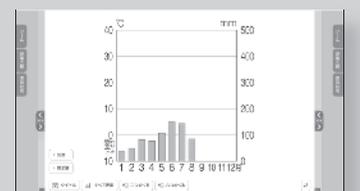
#### 2 見せたいところを自由に拡大して提示

指導ポイントに合わせて、写真や図版などをワンクリックで拡大、授業の焦点化を図ることができます。ダブルクリック拡大、範囲拡大など、指導シーンに合わせて使い分けが可能。



#### 3 豊富なデジタル教材で理解を深める

紙面には掲載されていない追加の写真や、教科特性に応じた動画、アニメーション、シミュレーションなど多様なコンテンツを収録。



#### 学習者用デジタル本文データとは



教科書を学習者用端末で利用することを想定し、EPUB3形式のフォーマットで作成したデータです。デジタルデータによって、紙の教科書では難しかった利用方法を実現します。

- 主な特徴
- 表示の白黒反転
  - ペンツールを用いた書き込み
  - ピンチ操作等による画面の拡大・縮小
  - 文字の大きさ、行の間隔を調整して表示 (国語・社会)
  - 文字の書体と、文字色・背景色を変えて表示 (国語・社会)

動作環境	
対応OS	: Windows Vista, 7, 8, 8.1
CPU/メモリ	: Windows動作環境に準拠
モニター	: 解像度1366×768ドット以上
HDD	: 1学年最大4GB
必須ソフトウェア	: Adobe Flash Player10.1以上 (最新版推奨), Adobe Reader8.0以上 (最新版推奨)

第3・4学年～第6学年 全3巻 (学校内フリーライセンス※)	
価格	全巻セット価格
各巻 72,000円	205,200円

(価格は税別) ※同一校内での使用に限り台数無制限でご利用いただけるライセンスです。

本広告に記載の内容、製品の仕様は予告なく変更する場合があります。

教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 TEL: 03-3238-6908 FAX: 03-3238-6999  
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>





第13回

まもなく締め切り!!

# 地球となかよし メッセージ 作品募集 (2015年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2015年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



川が...

近所の川はきれいですか? それともきたないですか? ぼくは、京都へ帰省した時に、七谷川という川へ行きました。そこは、水がとてもきれいでうめいでした。サワガニやヤゴ、カワヨシノボリなど、きれいな川にしかない生き物がいました。最近、トンボが少なくなってきたと聞いたことがあります。川が汚れて、ヤゴが育たないみたいです。ヤゴやカワヨシノボリ、サワガニが、住みやすいこのようなきれいな川を守りたいです。

小学社会通信 まなびと [2015年 秋号] 2015年9月1日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411